

2009 年度
一般財団法人
テクニカルコミュニケーター協会
事業報告書

自 2009 年 1 月 07 日
至 2009 年 12 月 31 日

2010 年 3 月 16 日
一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会

2009 年度事業の概要

■2009 年度全体計画

法人化後の初年度にあたる 2009 年、一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会は、多様化する取扱情報の品質改善により、さまざまな製品およびサービスの活用を促進し国民生活の質的向上に寄与する。その実現のため、取扱情報の創造と開発に必要なテクニカルコミュニケーション技術の再定義を進め、その業務に携わる人々の育成をはかる。また、TC シンポジウムをはじめとする交流と発表の場を一層充実させていくことで、取扱情報の発信に係わる人々の裾野を拡大し、取扱情報の重要性や可能性を啓発する。さらに、取扱情報に関する学術研究や産学連携によるプロジェクトを支援するとともに、国内外の関連団体との連携により各種の標準化活動を推進する。これらの多面的な活動を進めることで、一般財団法人として社会貢献をはかりつつ、本協会の公益性を高めていく。

■2009 年度総括

2009 年度は、TC 協会が一般財団法人として再スタートを切ることができ、公的活動の強化、TC 分野の関連団体との連携強化、アジアおよび欧州における国際交流と連携の拡充など、多くの面で成果を挙げた 1 年となった。任意団体時代と比較して、新聞雑誌などのマスコミで TC 協会の活動が取り上げられる機会が大幅に増え、TC シンポジウム 2009 京都開催では、シンポジウム史上はじめて、京都テレビが開催当日夜のニュース番組で約 2 分間にわたって TC シンポジウムを紹介した。一方、収益事業の面では、ガイドブック準備の遅れから、TC 技術検定 3 級テクニカルライティング試験を 2009 年度内に実施することができなかった。また、世界同時不況の影響を受け、セミナー事業においてもステップアップ講座の開催を見送ることとなった。これらの影響によって、収入面では予算を大きく下回る実績となった。ただし支出の面でも収入の落ち込みにほぼ匹敵する大幅なコスト削減を行い、収支差額の面では、任意団体から拠出を受けた組織体制変更準備金の範囲に収めることができた。

2009 年度 個別事業報告

入退会状況

2009 年 1 月 7 日現在

法人会員 96 社

個人会員 200 名

2009 年 12 月 31 日現在

法人会員 98 社

個人会員 199 名

2009 年 1 月～12 月の入退会数

新入会

法人会員 15 社

個人会員 29 名

退会

法人会員 13 社

個人会員 30 名

会議の部

評議員会

- 第1回 1月16日
- ・評議員選挙の準備
 - ・暫定運営体制
 - ・理事選任
 - ・支出削減策の実施
- 第2回 3月13日
- ・評議員選挙結果
 - ・運営連絡会の設置
 - ・2009年度事業計画書（案）の準備
 - ・2009年度収支予算書（案）の準備
 - ・定款修正の準備
- 第3回 4月15日
- ・定款の一部修正
 - ・2009年度 TC 技術検定実施案の修正
 - ・2009年度事業計画書（案）
 - ・2009年度収支予算書（案）
- 第4回 10月20日
- ・2010年度事業計画骨子（案）
- 第5回 11月26日
- ・2010年度事業計画書（案）
 - ・2010年度収支予算書（案）
- 第6回 12月17日
- ・2010年度事業計画書（案）
 - ・2010年度収支予算書（案）
 - ・2009年末での退任理事

理事会

第1回	1月7日
第2回	2月4日
第3回	3月4日
第4回	4月1日
第5回	5月13日
第6回	6月8日
第7回	7月6日
第8回	8月3日
第9回	9月7日
第10回	10月5日
第11回	11月11日
第12回	12月7日

運営連絡会

2009年3月13日、第2回評議員会の決議により発足。評議員長、副評議員長、公益活動企画会議議長、代表理事によって構成し、4月以降12月まで、適宜会合を持ち、運営面の連絡調整を実施した。

公益事業の部

1. TC シンポジウム

担当組織：TC シンポジウム委員会

委員長：黒田 聡 (株) 情報システムエンジニアリング

実施組織：TC シンポジウム 2009 実行委員会

実行委員長：加藤 憲治 (株) 富士通ラーニングメディア

幹事会社：(株) 富士通ラーニングメディア

TC シンポジウム大阪会議 京都開催代表：宮崎 邦明 エニシード (有)

開催実績：

【東京開催】8月25日(火)26日(水)工学院大学(新宿)

参加：1040名

【京都開催】10月9日(金)京都テルサ

参加：330名

活動実績

1月21日	第1回実行委員会
1月23日	第1回大阪会議
2月12日	第2回実行委員会
2月27日	第2回大阪会議
3月11日	第3回実行委員会
3月19日	第3回大阪会議
4月8日	第4回実行委員会
4月17日	第4回大阪会議
5月13日	第5回実行委員会
5月15日	第5回大阪会議
6月10日	第6回実行委員会
6月19日	第6回大阪会議
7月8日	第7回実行委員会
8月19日	第8回実行委員会
9月11日	第7回大阪会議
10月20日	反省会

11月20日 京都開催反省会
12月17日 TC シンポジウム 2010 に向けたテーマ検討開始

TC シンポジウム 2009 テーマと基調講演

テーマ：「よかった！」を引き出せ…！ TC の新しい活用法

基調講演：エンプティネス：日本のコミュニケーションの原像（ビデオ放映）

原 研哉氏 グラフィックデザイナー、日本デザインセンター代表&武蔵野美術大学教授

TC シンポジウム 2009 実施結果

新たな制作基盤となる XML に関連したパネルディスカッションを4件企画したことで、今後の TC 技術の動向とテクニカルコミュニケーターに期待される役割について議論を深めることができた。また、昨年に引き続き、tekomp から公式代表2名を招き TC 専門教育をテーマに国際的な連携を模索する取り組みが始まった。

京都開催においてはサービスマニュアルを正面から取り上げたセッションが好評となり、TC の裾野の拡大に向けた契機となった。

次年度への課題

TC の対象領域の拡大を目指し、ユーザーインターフェースとデザインに TC の立場から積極的に取り組む。

2. マニュアルコンテスト

担当組織：マニュアルコンテスト委員会

委員長：徳田 直樹（株）パセイジ

実施組織：マニュアルコンテスト 2009 実行委員会

実行委員長：嶋田 正裕（株）日立 ICT ビジネスサービス

応募点数 70 点

マニュアル・オブ・ザ・イヤー

ODYSSEY オーナーズマニュアル 本田技研工業株式会社

活動概要

・応募点数が前年比 11 点の減少となった。応募部署を取り巻く経営環境および製品の開発

環境が厳しさを増したことが原因と考えられる。

- Web マニュアル、組込マニュアルの分野で、新たなマニュアルの姿を示唆する取り組みがあった。

活動実績

1月15日	第1回実行委員会
2月4～6日	Page 2009 において、2008 年度受賞マニュアルを展示
2月20日	第2回実行委員会
3月12日	第3回実行委員会
4月22日	第4回実行委員会
6月16日	第5回実行委員会
6月23日	第6回実行委員会
7月7日	第7回実行委員会
8月18日	第8回実行委員会
8月25～26日	TC シンポジウム【東京開催】における展示
9月8日	第9回実行委員会
10月9日	TC シンポジウム【京都開催】における展示
10月16日	第1回マニコン委員会
10月27日	第10回実行委員会
11月17日	第2回マニコン委員会
11月20日	第11回実行委員会

次年度への課題

マニュアルコンテスト全体のリニューアルに向けた取り組みを開始する。取扱説明書の変化に対応し、審査の透明性の確保や時代に応じた基準での運用のため、審査基準、応募部門を見直すとともに特別賞を新設する。その結果、応募点数の増加を実現する。

3. 学術研究・産学協同の推進

担当組織： 学術研究産学協同委員会

委員長： 三好 貴雅 ソニー（株）

3-1. Web コミュニケーション WG

リーダー： 大野 邦夫 職業能力開発総合大学校教授

活動概要

クラウドや DITA など、Web 上の新たな動向や、使用説明の作成や伝達に関係の深い技術動向を中心に、積極的に情報共有と意見交換を進めた。

活動実績

1月29日	WG 会合：JEITA シンポジウム報告、他
2月26日	WG 会合：今後の検討テーマについて
3月30日	WG 会合：クラウドコンピューティング
5月22日	WG 会合：DITA 紹介
7月10日	WG 会合：新聞業界における Web 活用
9月28日	WG 会合：TC シンポジウムにおける発表報告、他
10月29日	WG 会合：携帯電話チュートリアルマニュアル
12月2日	WG 会合：携帯チュートリアル／音声マニュアル

次年度への課題

WG メンバーの要望を反映して、引き続き情報発信やコミュニケーションの技術動向について情報共有と意見交換を進める。

3-2. 産学協同研究 WG

リーダー： 三好 貴雅 ソニー（株）

活動概要

TC 協会と筑波大学（情報学群知識情報・図書館学類）の協働プロジェクトとして、テクニカルコミュニケーターを育成する専門教育のために標準的なカリキュラム・ガイドラインを検討するワーキンググループを発足させた。

活動実績

- 8月7日 筑波大学にて TC 協会から共同プロジェクトを提案
- 8月26日 TC シンポジウムにおいてプロジェクトの発足を発表
- 11月 WG メンバー選定
- 12月14日 第1回 WG 会合

次年度への課題

日本国内の TC 教育に携わる大学教員などの関係者からの意見も収集し、2010 年末までにガイドライン初版を完成させる。

4. 海外市場への対応

担当組織： 海外市場向け製品取扱情報・商品表示情報対応委員会（海外市場委員会）

委員長： 黒田 聡（株）情報システムエンジニアリング

活動概要

3 年あまりにおよぶ活動の集大成として、『徹底解説 取扱情報関連の中国法規および国家標準』の執筆に協力し、TC 協会出版の書籍として発行した。また、中国、韓国の TC 関連団体と連携し、11 月にドイツで開催された tcworld conference において発表と展示を行った。

活動実績

- 5月29日 セミナー開催「ここが変わった！ 2009 年中国 GB 大規模改訂」
製品情報関連中国国家標準の最新事情
- 7月 「徹底解説 取扱情報関連の中国法規および国家標準」出版
- 8月27～30日 中国標準化協会、中国標準化研究院訪問（黒田聡委員長、雨宮拓代表理事）
- 11月4～7日 tcworld conference 2009（Wiesbaden）参加
（黒田聡委員長、石井満委員、雨宮拓代表理事）

次年度への課題

アジア、欧州、北米の TC 関連団体との連携と情報交換を一層強化する。

5. 標準規格策定の推進

担当組織： 標準規格策定委員会

委員長： 徳田 直樹 (株) パセイジ

5-1. デジタル放送受信機器の接続説明標準化

活動概要

2008年8月に発足したワーキンググループ活動の成果として、「地上デジタル放送対応テレビの取扱説明情報に関する調査・研究」報告書を取りまとめ、公開した。本ワーキンググループ活動は、2009年9月末をもって完了した。

活動実績

1月26日	WG会合(第4回)
2月27日	WG会合(第5回)
3月27日	WG会合(第6回)
6月19日	WG会合(第7回)
8月26日	TCシンポジウムにおいて中間報告
9月25日	WG会合(第8回)
11月	「地上デジタル放送対応テレビの取扱説明情報に関する調査・研究」報告書をTC協会Webサイトにて公開

5-2. PDF電子校正向けの校正記号およびコメント入力方法のガイドライン策定

活動概要

2008年11月に発足したワーキンググループ活動の成果として、「PDF電子校正ガイドライン」を取りまとめ、2010年2月に公開予定。本ワーキンググループ活動は、2010年2月末をもって完了する。

活動実績

1月28日	WG会合(第3回)
3月2日	WG会合(第4回)
4月6日	WG会合(第5回)

- 5月21日 WG会合（第6回）
- 7月17日 WG会合（第7回）
- 8月26日 TCシンポジウムにおいて中間報告

5-3. 電子的テキスト校正ツール向け TC 分野の過指摘回避辞書構築

活動概要

2008年11月に発足したワーキンググループ活動の成果として、「テキスト校正ツールを活かすための過指摘回避辞書構築報告書」を取りまとめ、2010年2月に公開予定。本ワーキンググループ活動は、2010年2月末をもって完了する。

活動実績

- 2月6日 WG会合（第2回）
- 7月9日 WG会合（第3回）
- 8月11日 WG会合（第4回）
- 8月26日 TCシンポジウムにおいて中間報告
- 12月8日 WG会合（第5回）

6. その他

6-1. 中国出張

8月27日～30日 黒田聡海外市場委員会委員長、雨宮拓代表理事
Tekom代表およびKTCA代表とともに中国標準化協会、中国標準化技術院を訪問。Tcworldにおけるアジアからの発表準備を行った。

6-2. Tcworld conference 出張

11月3日～9日 黒田聡海外市場委員会委員長、石井満評議員、雨宮拓代表理事
黒田委員長、石井評議員は渡航費を自己負担。
Tcworld conference において発表とブース展示、欧州のTC専門教育関係者へのヒアリング。

6-3. ユニバーサルデザインビジネスシンポジウム参加

12月4日 山崎敏正評議員長、雨宮拓代表理事
日経デザイン誌の主催するシンポジウムに協賛し、TC分野のユニバーサルデザインへの取り組みについて発表を行った。

収益事業の部

1. セミナー事業

担当組織： セミナー部会

部会長： 三堀 邦夫 TC 協会常務理事

活動概要

TC 技術検定 2 級マニュアル制作実務試験の準備のため、従来のガイドブックが全面的に改訂されることにともない、例年実施していた「制作ステップアップ講座」の開催を見送った。また、ツールベンダーと連携した技術研修会についても、経済情勢の悪化が影響して開催することができなかった。

活動実績

テクニカルコミュニケーター入門講座

2009 年 5 月 28 日～10 月 15 日まで合計 10 回シリーズにて開催

参加：14 名

技術セミナー

「ここが変わった！ 2009 年中国 GB 大規模改訂」製品情報関連中国国家標準の最新事情

2009 年 5 月 29 日

参加：23 名

次年度への課題

2009 年度に見送りとなった「制作ステップアップ講座」の内容を全面的に見直して、新たに実施される TC 技術検定 2 級マニュアル制作実務試験の内容に沿った形で実施する。また、日本語スタイルガイドに沿った出張セミナーを法人会員を対象に個別に実施する。

2. TC 技術検定

担当組織： TC 技術検定部会

部会長： 高橋 尚子 國學院大學教授

活動概要

2010 年 2 月 14 日に実施の 3 級テクニカルライティング試験に備え、『日本語スタイルガイド』の執筆を行うとともに、試験問題の準備を進めた。2010 年 4 月末発行を目指し、2 級

マニュアル制作実務試験のガイドブックの執筆準備を開始した。

活動実績

2009年2月15日に、任意団体テクニカルコミュニケーター協会の事業として、マニュアル制作ディレクション試験、テクニカルライティング初級、テクニカルライティング上級の3種類の試験を実施した。

次年度への課題

2010年2月に3級テクニカルライティング試験を実施する。2010年7月には、2級マニュアル制作ディレクション試験、2級マニュアル制作実務試験、3級テクニカルライティング試験の3種類を実施する。

3. 受託事業

担当組織： 受託事業部会

部会長： 簗輪 精久 TC 協会 専務理事

活動概要

ニューメディア開発協会からの平成21年度受託調査研究につき、プロジェクトを発足させ、進行中（2010年3月末に報告書を作成予定）。個別マニュアル評価サービスを2009年12月に受注し、1月に評価結果を報告。

活動実績

ニューメディア開発協会からの平成20年度受託調査研究は、任意団体テクニカルコミュニケーター協会の事業として実施。

4. 出版事業

担当組織： 出版事業部会

部会長： 三堀 邦夫 TC 協会常務理事

活動実績

次の2点の書籍を発行した。

2009年7月 日本語スタイルガイド

2009年7月 徹底解説 取扱情報関連の中国法規および国家標準

機関誌は次の通り発行した

2009年2月 創刊号

2009年7月 2号

2009年8月 特別号 (TC シンポジウム論文集)

2009年11月 3号

2009年11月 特別号 (TC シンポジウム記録集)